

都市再生整備計画 事後評価シート  
泉大津駅周辺地区

令和6年3月

大阪府泉大津市

## 様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	大阪府		市町村名	泉大津市		地区名	泉大津駅周辺地区			面積	82.5ha			
交付期間	令和元年度～令和5年度		事後評価実施時期	令和5年度		交付対象事業費	2,665.9百万円	国費率	0.496					
1)事業の実施状況		事業名												
		当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	道路(泉大津駅前通り線)、高次都市施設(観光交流センター)、地域生活基盤施設(情報板)、地域生活基盤施設(緑地、広場)										
		提案事業	既存建造物活用事業(図書館)											
		事業名		削除/追加の理由					削除/追加による目標、指標、数値目標への影響					
		当初計画から削除した事業	基幹事業	地域生活基盤施設(情報板)					民間事業者からの寄付により同等施設を整備したため。			影響なし		
		提案事業	-					-			-			
		新たに追加した事業	基幹事業	道路(小松町4号線、菅原小松町線)、公園(小松公園)、誘導施設(既存建造物活用事業)(図書館)、地域生活基盤施設(高架下広場、小松緑道広場)					地区目標を達成するために事業を追加。			図書館及び観光交流センターの利用者数の数値目標と、地区のイベント数の数値目標を上方修正。		
		提案事業	-					-			-			
		交付期間の変更	当初	令和元年～令和5年		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		-						
		変更	-											
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況		指標		従前値	目標値		数値	目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)		フォローアップ予定期間		
		指標1	図書館及び観光交流センターの利用者数	人/年	82,293	H29	113,000	R3	203,344	○	ありなし	図書館及び観光交流センターを市民が利用しやすい駅前に移転させたことが利用増に寄与	-	
		指標2	地区のイベント数	回/年	4	H29	28	R5	33	○	ありなし	公園整備と市の積極的な取り組みによって、従前値と比較してイベント開催回数が増加	-	
		指標3	泉大津駅利用者数	人/日	28,682	H29	30,000	R5	22,500	×	ありなし	コロナウイルスの流行による外出自粛の余波等で駅の利用者数は低調(従前値の78%)	R11年度	
		指標4	泉大津駅前通り線歩行者数	人/日	2,362	H27	2,600	R5	2,176	×	ありなし	道路整備事業が未完了、コロナウイルスの流行による外出自粛の余波、商業施設の休業・閉店等が影響(従前値の92%)	R11年度	
		指標5									ありなし			
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況		指標		従前値	目標値		数値	目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)		フォローアップ予定期間		
		その他の数値指標1	まちづくりの住民参加に伴うワークショップの実施回数	回/年	-	-			4			市民団体と連携し、ワークショップを実施することで、市民のまちづくりへの意欲が向上している。	-	
		その他の数値指標2												
		その他の数値指標3												
4)定性的な効果発現状況														
5)実施過程の評価		実施内容				実施状況			今後の対応方針等					
		モニタリング	なし					都市再生整備計画に記載し、実施できた	-	-				
		官民連携による取組	・もんとパーク(高架下部)での市協賛イベントの実施 ・市民団体シーパスパーククラブと市が連携して行う市民連携イベント					都市再生整備計画に記載はなかつたが、実施した	-					
		持続的なまちづくり体制の構築	なし					都市再生整備計画に記載したが、実施できなかつた	-	今後も積極的に官民連携による取組を実施し、魅力ある交流活動の促進を図る。				
				都市再生整備計画に記載し、実施できた	-				-	-				
				都市再生整備計画に記載はなかつたが、実施した	-				-	-				
				都市再生整備計画に記載したが、実施できなかつた	-				-	-				

## 様式2-2 地区の概要

泉大津駅周辺地区(大阪府泉大津市) 都市再生整備計画事業の成果概要



### 道路事業 泉大津駅前通り線(事業中)



## 地域生活基盤施設 小松緑道広場



公園事業  
小松公園



## 地域生活基盤施設 高架下広場



既存建造物活用事業  
図書館・緑光交流センター



道路事業  
菅原小松町線

道路事業  
小松町4号線

まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・南海本線連続立体交差事業により、東西の分断は一部解消されたものの、泉大津駅西側地区の賑わいの再生には、民間開発を促すための事業展開が必要であることが課題であったが、西側地区において、小松公園や小松緑道広場等の整備が進み、民間開発を促す基盤は整ってきてている。今後は泉大津駅西側地区において、泉大津駅前通り線の整備を進めるなど、さらなる事業展開を実施し、より民間開発を促していくことが求められている。</li> <li>・中心拠点の魅力ある文化・交流ゾーンの創出を図るまちづくりが課題であったが、中心拠点に図書館、観光交流センターを移転し、高架下広場を整備することで、地域の活性化が図られている。今後は再生整備計画の区域内において、都市空間の質(交通利便性、快適性、安全性)の向上が求められている。</li> </ul>
今後のまちづくりの方策 (改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・泉大津駅前通り線を中心とする泉大津駅西側地区においては、今後も地域の活性化に繋がる計画を策定し、賑わいを再生していく必要がある。</li> <li>・都市再生整備計画の区域内において、都市空間の質(交通利便性、快適性、安全性)の向上を図るため、継続的に整備を行う。</li> </ul>

# 都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

## (1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

## (2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 官民連携による取組みの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

## (3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

## (4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区的名称(当該地区的次期計画も含む)

## (5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

## (6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

## (7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

## (1) 成果の評価

### 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標	●		<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光交流センターの利用者数</li> <li>・図書館の利用者数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館及び観光交流センターの利用者数</li> </ul>	図書館と観光交流センターが合築されたため。
C. 目標値	●		<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区のイベント数の目標値⇒6回/年</li> <li>・図書館及び観光交流センターの利用者数の目標値⇒110,000人/年</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区のイベント数の目標値⇒28回/年に上方修正</li> <li>・図書館及び観光交流センターの利用者数の目標値⇒113,000人/年に上方修正</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高架下広場、小松緑道広場など、各広場の整備により魅力ある交流機能が向上し、イベント開催数の増加が見込まれるため。</li> <li>・現道の改修により、来街者の地区内へのアクセス向上が見込まれるため。</li> </ul>
D. その他( )		●	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画面積81.0ha</li> <li>・交付限度額678.8百万円</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画面積82.5ha</li> <li>・交付限度額1321.8百万円</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小松緑道広場を整備する区域を都市再生整備計画の区域に追加したため。</li> <li>・事業の変更、追加によって上方修正。</li> </ul>

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	泉大津駅前通り線	1,338	L=203.4m	1,338	L=203.4m	なし	影響なし		次期計画 で継続
道路	小松町4号線	–	なし	231	L=200m	令和2年度に計画変更して追加。 本市中心拠点とフェリーターミナル や広域幹線道路とのアクセス機能 向上を図る。	本市中心拠点へのアクセス増加が見込まれるため、図書館及び 観光交流センターの利用者数を上方修正。また、小松公園や小松 緑道広場へのアクセスが向上するため、イベント回数も上方修正。	●	
道路	菅原小松町線	–	なし	27	170m	令和2年度に計画変更して追加。 新たに整備する交流拠点へのア クセス向上を図る。	本市中心拠点へのアクセス増加が見込まれるため、図書館及び 観光交流センターの利用者数を上方修正。また、小松公園や小松 緑道広場へのアクセスが向上するため、イベント回数も上方修正。	●	
公園	小松公園	–	なし	3,054	2.0ha	令和2年度に計画変更して追加。 市の中心部における交流の拠点と して官民連携による交流施設とし て整備。	イベント数の実施回数増加が見込まれるため、数値目標を6回/年 から28回/年に上方修正。	●	
地域生活基盤 施設	広場	30	1,000m <sup>2</sup>	0	0m <sup>2</sup>	令和3年度に高架下広場に名称変 更	高架下広場へと名称を変更し、基幹事業として存在するので影響 なし。		
地域生活基盤 施設	情報板	5	4基	0	0基	令和4年度に計画変更して削除 民間事業者からの寄付により同等 施設を整備したため。	影響なし。		
地域生活基盤 施設	高架下広場	–	なし	46	1,000m <sup>2</sup>	令和3年度に広場から名称変更 高架下の空間でありながらも、緑を 感じることのできる魅力ある交流広 場として整備。	イベント数の実施回数増加が見込まれるため、数値目標を6回/年 から28回/年に上方修正。	●	
地域生活基盤 施設	小松緑道広場	–	なし	21	1,400m <sup>2</sup>	令和3年度に計画変更して追加 スケートボード広場として改修し、 小松公園と一体的な交流拠点とし ての魅力向上を図る。	イベント数の実施回数増加が見込まれるため、数値目標を6回/年 から28回/年に上方修正。	●	
誘導施設	図書館	–	なし	521	2470.41m <sup>2</sup>	令和2年度に計画変更して追加。 駅前に移転することで、本市が目 指す「読書量日本一のまち」の実 現を図る。	影響なし。	●	
高次都市施設	観光交流センター	52	400m <sup>2</sup>	81	383.46m <sup>2</sup>	令和4年度に事業費変更	影響なし。	●	

※1:事業費の大額変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業									
事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造 支援事業	既存建造物活用事業(図書館)	327	2400m <sup>2</sup>	521	2470.41m <sup>2</sup>	令和4年度に計画変更	影響なし	●	
事業活用調査									
まちづくり 活動推進事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考)関連事業								
事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考
			当初計画	最終変更 計画	当初計画	最終変更計画		
泉大津市市民会館等跡地活用基本計画	泉大津市小松町内地		-	21	-	平成29年～令和元年	令和元年度作成済み	
泉大津駅西地区周辺整備事業	泉大津市春日町及び若宮町外地内		-	30	-	平成30年～令和元年	令和元年度完了	
民間活用地整備	泉大津市小松町内地		-	335	令和2年～令和4年	令和2年～令和5年	令和5年度完了予定	

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)	数値(エ)			目標達成度※2	1年以内の達成見込みの有無	
			基準年度	目標年度	基準年度	目標年度		モニタリング	○	△		あり	なし
指標1	図書館及び観光交流センターの利用者数	人/年	図書館の来館者数が観測されており、その値を評価値とする。	-	-	82,293	H29	113,000	R3	モニタリング	○	モニタリング	○
										事後評価 見込み	●	203,344	事後評価 ○
指標2	地区的イベント数	回/年	本都市再生整備計画区域内で行われたイベントの実施回数について集計を行い、評価値とする(使用申請の台帳、又は市HP及びインターネットのイベント情報より集計)。	-	-	4	H29	28	R5	モニタリング	○	モニタリング	○
										事後評価 見込み	●	33	事後評価 ○
指標3	泉大津駅利用者数	人/日	南海電鉄HP記載の鉄道線各駅一日平均乗降人数推移より、泉大津駅の利用者数について集計を行い、評価値とする。	-	-	28,682	H29	30,000	R5	モニタリング	○	モニタリング	●
										事後評価 見込み	●	22,500	事後評価 ×
指標4	泉大津駅前通り線歩行者数	人/日	泉大津駅前通り線において交通量調査(7-19時、歩行者対象、平日1回1断面)を実施し、歩行者数について集計を行い、評価値とする。	-	-	2,362	H27	2,600	R5	モニタリング	○	モニタリング	●
										事後評価 見込み	●	2,176	事後評価 ×
指標5										モニタリング	○	モニタリング	
										事後評価 見込み	●	事後評価 ○	

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	図書館及び、観光交流センターの来館者数は目標値を大きく超える値となっている。要因としては、図書館及び観光交流センターの合築移転に伴う、利便性の向上や、認知度の向上が大きな要因であると考えられる。	-
指標2	地区的イベント数は目標値を超える値となっている。要因としては、公園整備に合わせた市の積極的な取り組みによると考えられる。	令和4年度の実績値において目標値を達成した。
指標3	泉大津駅利用者数は目標値を下回る値となっている。(従前値の78%)要因としては、コロナウイルスの流行による外出自粛の余波、また、それに伴うリモートワークの浸透等が要因として挙げられる。	令和4年度実績値であるが、令和5年度としても達成は見込みにくい。
指標4	泉大津駅前通り線歩行者数は目標値を下回る値となっている。(従前値の92%)要因としては、道路整備事業が未完了、コロナウイルスの流行による外出自粛の余波、商業施設の休業・閉店等が要因と考えられる。	-
指標5		

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のこという。

※2 目標達成度の記入方法

○:評価値が目標値を上回った場合

△:評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×:評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)	従前値 (イ)		数値(ウ)		本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
				基準年度	基準年度	モニタリング	事後評価		
その他の数値指標1	まちづくりの住民参加に伴うワークショップの実施回数	回/年	本都市再生整備計画内で行われた市民ワークショップの実施回数について集計を行い、評価値とする。	-	-	-	-	モニタリング ● 4	市民が本市で住むことに、より誇りを持てる都市として、経済機能の他に文化機能や交流機能の充実を図るため。
その他の数値指標2	-	-	-	-	-	-	-	モニタリング ● - - -	-
その他の数値指標3	-	-	-	-	-	-	-	モニタリング ● - - -	-

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことという。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

--

## (2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

### 添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	-	-
	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	-	-

### 添付様式3-② 官民連携による取組の実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
もんとパーク(高架下部)での市協賛イベントの実施	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	・令和4年3月5日に借りゴミ競争、令和4年4月10日に泉大津アーティストフェスティバル、令和4年9月23日にだんじりパレード、令和4年10月29日にフリマDE地域貢献、令和4年11月3日にいづみおおつオープンアトリエを開催。 ・令和4年度に計5回開催	今後も引き続き積極的にイベントを開催していく。
市民団体シーパスパーククラブと市が連携して行う市民連携イベント	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	・令和4年に12月10日に公園の工事現場見学と植樹体験、令和4年4月30日に完成まで待てない！新しい公園に向けてのフェス、令和5年7月9日にシーパスパークオープニングイベントを開催。 ・令和4,5年度に計3回開催	今後も引き続き積極的にイベントを開催していく。

### (3) 効果発現要因の整理

#### 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内会議	都市づくり政策課(街路係・公園みどり係) 生涯学習課	第1回:令和5年7月20日	都市づくり政策課

#### 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

種別	事業名・箇所名	指標の種別 指標名	指標1	指標2	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
			図書館及び観光交流センターの利用者数	地区的イベント数						
基幹事業	道路(泉大津駅前通り線)	指標改善への貢献度 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	図書館及び、観光交流センターの来館者数が増加した要因としては、図書館及び観光交流センターの移転に伴う、利便性の向上や、認知度の向上によるものと考えられる。	地区的イベント数が増加した要因としては、公園整備と市の積極的な取組によるものと考えられる。	-	総合所見	総合所見	総合所見	総合所見	総合所見
	道路(小松町4号線)				○					
	道路(菅原小松町線)				○					
	公園(小松公園)				○					
	地域生活基盤施設(高架下広場)				○					
	地域生活基盤施設(小松緑道広場)				-					
	誘導施設(図書館)				-					
提案事業	高次都市施設(観光交流センター)				-					
	既存構造物活用事業(図書館)				-					
					-					
					-					
					-					
					-					
					-					
関連事業	泉大津市市民会館等跡地活用基本計画	指標改善への貢献度 ○ ○ ○	多種多様な企画・イベントの実施や、SNS等を通じた情報発信を充実する。	引き続き、府内関係課や地元の企業及び組織と協力しながら、イベント、まちづくり活動等を継続していく。	総合所見	総合所見	総合所見	総合所見	総合所見	総合所見
	泉大津駅西地区周辺整備事業									
	民間活用地整備									

※指標改善への貢献度

- : 事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- : 事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △: 事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	多種多様な企画・イベントの実施や、SNS等を通じた情報発信を充実する。	引き続き、府内関係課や地元の企業及び組織と協力しながら、イベント、まちづくり活動等を継続していく。		
-------	-------------------------------------	---	--	--

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標3			指標4								
指標名		泉大津駅利用者数			泉大津駅前通り線歩行者数								
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	道路(泉大津駅前通り線)	×	泉大津駅利用者数は目標値を下回る値となっている。(従前値の78%)要因としては、コロナウイルスの流行による外出自粛の余波、また、それに伴うリモートワークの浸透等が要因として挙げられる。	III	×	泉大津駅前通り線歩行者数は目標値を下回る値となっている。(従前値の92%)要因としては、道路整備事業が未完了、コロナウイルスの流行による外出自粛の余波、商業施設の休業・閉店等が要因と考えられる。	II						
	道路(小松町4号線)	-											
	道路(菅原小松町線)	-											
	公園(小松公園)	-											
	地域生活基盤施設(高架下広場)	-											
	地域生活基盤施設(小松緑道広場)	-											
	誘導施設(図書館)	△											
	高次都市施設(観光交流センター)	△											
提案事業	既存構造物活用事業(図書館)	△											
関連事業	泉大津市市民会館等跡地活用基本計画	-											
	泉大津駅西地区周辺整備事業	-											
	民間活用地整備	-											

※目標未達成への影響度

××:事業が効果を発揮せず、  
指標の目標未達成の直接的な原因となった。  
×:事業が効果を発揮せず、  
指標の目標未達成の間接的な原因となった。  
△:数値目標が達成できなかった中でも、  
ある程度の効果をあげたと思われる。  
-:事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類

分類I:内的な要因で、予見が可能な要因。  
分類II:外的な要因で、予見が可能な要因。  
分類III:外的な要因で、予見が不可能な要因。  
分類IV:内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	現計画で完成した公園事業や広場事業の利活用を進めるとともに、今後実施する2期計画で、道路整備(継続)、公園整備(新規)、空き施設改修(新規)を実施予定であり、それら事業の完成によって、駅周辺や市役所周辺の再生及び拠点性の充実を図ることによって、指標値の達成に繋げていきたい。		
------------------	---	--	--

#### (4) 今後のまちづくり方策の作成

##### 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内会議	都市づくり政策課(街路係・公園みどり係) 生涯学習課	第1回:令和5年7月20日	都市づくり政策課

##### 添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
市域にある各公共施設などが間もなく更新時期となり、今後、将来人口などを踏まえ適正に、集約統合などを行う必要がある。		-	
郊外などへの大規模商業施設の立地により、平成7年に竣工した泉大津東地区市街地再開発事業商業施設の需要に低下がみられ、中心拠点としての活性化が必要である。		-	
平成30年度施策方針に掲げた「読書量日本一のまちづくり」を行うためには、利便性の高い図書館の整備が必要である。	図書館及び、観光交流センターを中心拠点となる泉大津駅前に統合・移転することで、中心拠点の活性化、公共施設の更新・集約を実現した。 また、利便性の高い図書館を整備することができ、来館者数を大きく増やすことができた。	-	-
市域はコンパクトながら、公共施設などが点在しているため、都市計画マスターplanにおいて中心拠点として位置づけられた泉大津駅周辺に公共機能や商業機能などを集積しなければならない。		引き続き、中心拠点である泉大津駅周辺において立地適正化計画に位置付けた誘導施設の充実を図る事が必要である。	-
泉大津駅東側駅前広場には、駐輪場が整備されており、中心拠点において交流機能の醸成を図るために広場がない。	駅前広場ではないが、令和3年の計画変更により高架下広場(もんとパーク)を追加し交流機能を備えることができた。	全体的な動線も考慮しながら、中心拠点における誘導施設の立地を図り、泉大津駅周辺での交流機能を更に向上させる必要がある。	-

<p>南海本線連続立体交差事業により、東西の分断は一部解消されたものの、泉大津駅西側地区の賑わいの再生には、民間開発を促すための事業展開が必要である。</p>	<p>基幹事業として、泉大津駅西側において泉大津駅前通り線の整備に着手したほか、小松公園(シーパスパーク)、小松緑道広場、小松町4号線、菅原小松町線の整備が完了し、拠点の創出やアクセス性の向上が図られた。</p> <p>また、関連事業として、泉大津駅西地区周辺整備事業を実施した。</p>	<p>泉大津駅前通り線が事業期間内で完成できなかつたため、次期計画でも位置付け、そこでの事業の完成を見据えた民間開発を促すための事業展開が必要である。</p> <p>また、泉大津駅西側において、小松公園の活用も視野に入れ、まちそのものの活性化に繋がる取り組みを検討していく必要がある。</p>	<p>-</p>
<p>泉大津駅西側の大津神社周辺では、他地域にない祭礼(だんじりのかち合い)が行われており、また、夏の音楽イベント開催時には、多数の来街者があるが、一時的なものにとどまり、まちそのものの活性に結び付けられていない。</p>	<p>泉大津駅ロータリーには、学生用の送迎バスが多数乗り入れを行っているが、単なる通過点となっており、学生の活力をまちの活性化に活かすことができていない。</p>	<p>駅前に図書館を移転したことにより、学生の立ち寄り場所として機能している。</p>	<p>引き続き、他の事業との連携も図りながら、学生(若者世代)を取り込む対応策を検討していく必要がある。</p>
<p>外国人観光客の宿泊地としての利用が増加しているが、単なる宿泊地の一つとなっているため、気軽に回遊できる一つの目的地としての整備が必要である。</p>	<p>基幹事業として小松公園(シーパスパーク)や高架下広場(もんとパーク)を整備することができ、回遊の目的地、交流拠点となる。</p>	<p>アフターコロナが本格化するなかで、引き続き他の事業との連携も図りながら、インバウンドに対する対応策を検討していく必要がある。</p>	<p>-</p>
<p>泉大津駅周辺において、市のシンボルとして市民が誇れる交流拠点となりうるスペースが存在しない。</p>		<p>-</p>	<p>-</p>
<p>泉大津駅周辺地区の交流活動を活性化させるため、フェリーターミナルや広域幹線道路からのアクセスを向上させる必要がある。</p>	<p>小松町4号線、菅原小松町線の整備を行うことによって、フェリーターミナルや広域幹線道路からのアクセスが向上している。</p>	<p>泉大津駅から港湾エリアまでの歩行者動線が十分とは言い難いため、ネットワーク化や誘導を促す仕掛け等について引き続き検討が必要である。</p>	<p>-</p>

<p>泉大津～北九州新門司間を結ぶフェリーターミナル利用の観光客を十分に活かすことができていない。</p>			
<p>市域の狭い本市にとっては、利用頻度の低い港湾施設などの既存施設を本市施設との連携や民間事業者による管理制度の導入などを行い、有効的に活用し、市民サービスの充実を図る必要がある。</p>	<p>小松公園（シーパスパーク）、小松緑道広場の完成によって、臨港部において、観光客及び市民の一定のサービス機能を提供できた。</p>	<p>引き続き、他の事業との連携も図りながら、フェリー利用者の取り込みや港湾施設などの既存施設の有効活用方策を検討していく必要がある。</p>	
<p>公道での利用が問題化しつつあるスケートボードについては、新たなスポーツ文化の1つであるが、泉大津市内においてスケートボードを十分に楽しめる施設が存在しない。</p>	<p>小松緑道広場をスケートボード広場として改修することによって、スケートボードを楽しめる施設を建設した。</p>	<p>-</p>	<p>-</p>

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	整備した施設の利用促進	地域住民等の利用を促す広報を適宜実施する。	・図書館イベント(特設フェア、展示等)
	整備した施設を活用した各種活動の実施	地域住民や来訪者が交流できるイベント活動などを企画するとともに、実施主体者への支援を継続的に行う。	・マルシェ等の一般参加型イベント ・学校等による行事利用

B欄 改 善 策  ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	中心拠点への都市機能誘導施設(教育機能、商業機能、交流施設等)の集積	図書館、観光交流センターは中心拠点に移転できたが、住民の利便性の向上を図る施設、インバウンドや若者世代の交流・回遊を促す施設について、立地適正化計画にもとづき、誘導を図っていく。	・教育支援センターの移転 ・商業施設の誘致
	駅前通り線沿線をはじめとし、泉大津駅西側地区の更なる活性化	泉大津駅前通り線を確実に整備するとともに、沿道土地利用の促進を図る。道路整備、公園整備のインパクトを海側にも展開していく。	・泉大津駅前通り線の整備 ・商業施設の誘致

フローラップ又は次期計画等  
において実施する改善策  
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

<input checked="" type="checkbox"/>	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
<input checked="" type="checkbox"/>	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
<input checked="" type="checkbox"/>	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
<input checked="" type="checkbox"/>	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
<input checked="" type="checkbox"/>	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

なし

#### 添付様式5-④ 目標を量化する指標にかかるフォローアップ計画

- ・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
- ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

- ・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指 標	単位	従前値	年度	目標値	年度	評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無	フォローアップ計画		
						確定	●			予定時期	計測方法	その他特記事項
指標1	図書館及び観光交流センターの利用者数	人/年	82,293 H29	113,000 R3		確定	●	203,344	○	R11年4月	-	- 毎年、モニタリングを行い、推移を確認する。
						見込み	●					
指標2	地区のイベント数	回/年	4 H29	28 R5		確定	●	33	○	R11年4月	- 交通量調査を実施し、歩行者数について集計を行う。	- 毎年、モニタリングを行い、推移を確認する。
						見込み	●					
指標3	泉大津駅利用者数	人/日	28,682 H29	30,000 R5		確定	●	22,500	×	R11年4月	- 交通量調査を実施し、歩行者数について集計を行う。	- 每年、モニタリングを行い、推移を確認する。
						見込み	●					
指標4	泉大津駅前通り線歩行者数	人/日	2,362 H27	2,600 R5		確定	●	2,176	×	R11年4月	- 交通量調査を実施し、歩行者数について集計を行う。	- 每年、モニタリングを行い、推移を確認する。
						見込み	●					
指標5						確定	●		あり	R11年4月	- 交通量調査を実施し、歩行者数について集計を行う。	- 每年、モニタリングを行い、推移を確認する。
						見込み	●					
その他の数値指標1	まちづくりの住民参加に伴うワークショップの実施回数	回/年	-	-		確定	●	4	△	R11年4月	- 交通量調査を実施し、歩行者数について集計を行う。	- 每年、モニタリングを行い、推移を確認する。
						見込み	●					
その他の数値指標2						確定	●		△	R11年4月	- 交通量調査を実施し、歩行者数について集計を行う。	- 每年、モニタリングを行い、推移を確認する。
						見込み	●					
その他の数値指標3						確定	●		△	R11年4月	- 交通量調査を実施し、歩行者数について集計を行う。	- 每年、モニタリングを行い、推移を確認する。
						見込み	●					

## 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	図書館、及び観光交流センターの利用者数について、数値目標を達成でき文化機能及び交流機能の充実並びに利便性の向上に大きく寄与したことを確認できた。	社会情勢によって目標値を変更する等、臨機応変に対応する必要がある。
	うまくいかなかつた点	コロナウイルスの流行による外出自粛、またそれに伴うリモートワークの浸透等によって、泉大津駅利用者数や、駅前通り線の歩行者数が目標値に届かなかつた。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	事業の整備の効果を示す指標として、地区のイベント数を設定することでアウトカムである交流機能の向上を表すことができた。	事業の効果を直接的に表すことのできる指標の設定が今後も必要である。
	うまくいかなかつた点	泉大津駅の利用者数は都市再生整備計画事業との相関が難しく、社会情勢の変化も受けやすい。	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	基幹事業にて整備を行った小松公園について、基本設計の段階から住民も参画し、整備形態などの協議を行うことで、円滑な事業の実施と満足度の高い施設の実現に寄与できた。	今後も事業実施にあたっては、住民の参加、意見を聞く機会・場を設け、進めていく必要がある。
	うまくいかなかつた点	-	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点		
	うまくいかなかつた点		
その他	うまくいった点		-
	うまくいかなかつた点		

## 添付様式6-1参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

・今後の都市再生整備計画事業の活用予定

道路事業として泉大津駅前通り線[継続]、高質空間形成施設として市道春日町8号線外(通学路の安全性向上)、公園事業として東雲公園(リニューアル)を計画している。また、提案事業の地域創造支援事業として教育支援センターの移転を計画している。

## (5) 事後評価原案の公表

### 添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市のホームページに記載	令和5年9月4日～ 令和5年9月29日	令和5年9月4日～ 令和5年9月29日	担当課へ持参、FAX、 電子メール	都市づくり政策課
広報掲載・回覧・個別配布	－	－	－		
説明会・ワークショップ	－	－	－		
その他	窓口閲覧	令和5年9月4日～ 令和5年9月29日	令和5年9月4日～ 令和5年9月29日		

住民の意見	特になし。
-------	-------

## (6) 評価委員会の審議

### 添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織			
学識経験のある委員	久 隆浩(近畿大学 教授) 熊谷 樹一郎(摂南大学 教授) 宮地 茉莉(関西大学 助教)	令和5年10月3日	都市づくり政策課	-	独自に設置			
その他 の委員								
審議事項※1		委員会の意見						
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	・方法書に従って、事後評価が適正に実施されたことが確認された。						
	成果の評価	・未達成指標について今後の見通しや、事業内容、事業計画変更に関する質疑があつたが、成果の評価そのものは妥当であると認められた。						
	実施過程の評価	・実施過程の評価は妥当であると認められた。						
	効果発現要因の整理	・達成指標に対する効果発現要因についての整理は妥当であると認められた。 ・未達成指標に関しては、歩行者通行量や駅利用者数であるため、計画に位置付けたスポット的な事業とともに、地域を巻き込む様な取組みが次期計画の過程で重要であるとの意見があつた。交流人口を増やすという観点が必要である。						
	事後評価原案の公表の妥当性	・事後評価原案の公表について妥当であると認められた。						
	その他	・特になし。						
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	・事後評価の手続きは妥当であると認められた。						
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	・泉大津駅利用者に関しては、近隣市を巻き込む、インバウンドで増えた観光客が泉大津駅で降りるような仕掛けを導入する等の工夫が必要である。 ・エリア全体の人の流れや動線を考慮して整備を行うとより良くなる。 ・一過性の強いイベントだけでなく、継続性の高い市民団体等が存在することは良いことである。						
	フォローアップ	・泉大津駅利用者数については毎年確認をしていく。						
	その他	・特になし。						
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・今後のまちづくり方策は妥当であると認められた。						
その他		・特になし。						

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。

## (7) 有識者からの意見聴取

### 添付様式9 有識者からの意見聴取

・この様式は、効果発現要因の整理(添付様式5)、今後のまちづくり方策の検討(添付様式6)、評価委員会の審議(添付様式9)以外の機会に、市町村が任意に有識者の意見聴取を行った場合に記入して下さい。

意見聴取した有識者名・所属等	実施時期	担当部署
なし		

有識者の意見	
--------	--